

## 第1章 目的及び方法

### 第1節 目的

長期にわたる入院生活や在宅療養を余儀なくされている子どもたちは、同年代の子どもたちの活動範囲に比べると、非常に限られた空間の中で生活している。また友人と自由に面会できる状態ではなく、孤独感も生じやすい。しかしながら、こうした状況の中で ICT を活用して外部とのコミュニケーションを確保することにより、疎外感が軽減され、前籍校復学や社会復帰がスムーズになった事例は数多い。そこで、ICT を活用することで、病気療養児の生活がより豊かになることを明らかにしたいと考えた。

今後政府の計画に基づき、全国の小中高等学校の各学級が高速大容量回線でつながるようになれば、入院中の子どもたちが、それまで在籍していた学校の授業の一部をネット経由で受けることも可能になる。そのような遠隔教育実施におけるコーディネータとしての役割も病弱教育担当教員に求められるであろう。そこで、養護学校及び院内学級における指導事例の分析を通して、ICT の有効な活用法について明らかにしようと考えた。教員のスキルアップのためにも参考となる事例を紹介し、ICT 活用促進の一助としたい。

1. 院内学級における ICT 環境の現状と課題について調査し、あるべき環境について提案したい。
2. 院内学級在籍児童生徒の ICT 活用の現状と課題、希望について調査し、ICT を有効に活用した教育的支援のあり方を提案したい。
3. 院内学級担当教員の ICT 活用の現状と課題について調査し、身に付けるべき知識・技能について明らかにし、教員の専門性を高めるための研修のあり方について提案したい。

## 第2節 方法

1. 院内学級担当教員へのアンケート調査を行った。1都15県下、64学級の担当者（64名）より回答を得た。

調査は、2003年8月－2003年9月、手渡し及び郵送で院内学級担当者に調査票セット（依頼文書、調査票、返信用封筒、名刺を入れたクリアファイル）を配布した。<sup>1</sup>

- ・ 2003年8月青森県で行われた「病弱・院内学級教育セミナーin 八戸」の席で、調査の趣旨を説明し、協力に同意してくださった教員に配布。
- ・ 東京都、神奈川県内の院内学級に、あらかじめ電話で承諾を得た上で郵送。
- ・ 「院内学級担当者の会」事務局の協力により、各地の会員に郵送。さらに、会員を通じてその地域の院内学級担当者に配布していただいた。

2. 東京都立光明養護学校（国立成育医療センター内）そよ風分教室の在籍児童生徒 27名への面接調査を行った。<sup>2</sup>

調査は、2003年7月と9、10月の2期に分けて行った。

第1期：7/7, 8, 9, 11

（その時点で在籍している児童生徒を対象とした。）

第2期：9/8, 16, 24, 10/3

（夏休み中及び2学期に転入してきた児童生徒を対象とした。）

- ・ 事前に保護者向け依頼文と面接の内容を分教室の教員に回覧、了承を得た上で、担任を通して調査者の連絡先を明記した依頼文を保護者に配布した。
- ・ 病状が重い等の理由で面接するのは難しいと担任が判断した児童生徒は、調査対象からはずすようにした。
- ・ 依頼文配布後1週間の問い合わせ期間をおいたが、保護者から意見や質問はなかった。
- ・ 担任から保護者、本人の同意を確かめた上で、インタビューを行った。
- ・ インタビューを予定していた児童生徒の体調が良くない場合は、調査を延期し、日を改めて行うようにした。
- ・ 休み時間、放課後、児童生徒の空き時間を利用して行った。
- ・ インタビューを行った場所は、分教室の教室、図書コーナー、病棟のプレイコーナー、ベッドサイド等、児童生徒の状況によって様々であった。
- ・ インタビュー場面は、担任が同席、付き添いあるいは面会中の保護者が同席、担任が児童生徒に対して初対面の調査者を紹介し一部分だけ同席、開始時から

調査者と児童生徒の1対1等、対象児童生徒の状況によって異なった。

- ・ インタビューの時間はおよそ10分から20分程度であったが、インタビューの内容に関する雑談も交え、30分を超えたケースもあった。

**3. 東京都、神奈川県内の公立養護学校及び院内学級等6カ所を訪問し、ICT環境の見学及び情報担当（学校によって呼称は様々）教員への面接調査を行った。調査は、通常の授業に支障のないように、主に夏期休業中に行った。**

- ・ あらかじめ電話やメールで、院内学級担当者に連絡を取り、見学の趣旨を説明し、事前に許可を得て訪問日を設定していただいた。
- ・ 東京都内の院内学級訪問に関しては、東京都立光明養護学校管理職から対象学級等の本校管理職宛に正式な依頼状を送付する手続きを取った。
- ・ インタビューは30分から1時間と、場合によって異なった。
- ・ インタビュー中にメモした事柄を整理してテキストデータに打ち直した文書を、後日インタビュー対象教員に送信し、内容を確認及び訂正していただいた。調査後のメールのやりとりの中で、さらに詳しい情報を得ることができた。

本調査では、個々の回答者の回答に関して、全体的な結果を示すのみで、個々の回答は特定されない配慮を行っており、倫理面での問題はないと判断した。

---

<sup>1</sup> 巻末に資料1,2添付

<sup>2</sup> 巻末に資料3,4添付